

# 令和6年用すもも病害虫防除基準

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用 回数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
① 落葉後 休眠 発芽前 期	カイガラムシ類幼虫	1. 水 (98ℓ)	14日 前 まで	2回以内	300~ 400ℓ	1. 石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を使用する場合は、この防除の7日前まで散布を終わらせる。 2. 温暖な日を選び主幹部にもかかるようにていねいに散布する。また、かかりにくい場所では手散布を実施する。 3. ふくろみ病対策としてトレノックスフロアブル500倍(14日前まで、3回以内)を加用してもよい。 4. ハーベストオイルに替えてスプレーオイル50倍(発芽前、-)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	カイガラムシ類	2. アプロードフロアブル 1,000倍(100ml)					
		3. ハーベストオイル 50倍(2ℓ)	発芽前	-			
開花前 【特別 対策】	黒斑病	1. ICボルドー412 30倍(3.3kg)	-	-	400ℓ	1. 黒斑病が多発傾向にあるので本防除を徹底する。また、密度低減を図るため、被害葉や被害果は見つけしだい摘除し、土中深く埋め園地内地表面に放置しない。	散布日 月 日 散布量 ℓ
開花前 【特別 対策】	ナシヒメシンクイ スモモヒメ シンクイ	1. ナシヒメコン 100本/10a	-	-	-	1. 下記交信かく乱剤の使用上の注意事項を参照し、開花前に設置する。	設置日 月 日 設置量 本
② 4月 下旬 後	灰星病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)	前日 まで	3回以内	400ℓ	1. 灰星病予防の重要な時期にあたるので、時期を失わないよう散布する。 2. 訪花昆虫保護のため隣接園の飛散には十分注意し、ハチの活動の少ない早朝に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ロブラール水和剤 1,500倍(66g)					
③ 5月 下旬 後	灰星病	1. ベルクートフロアブル 2,000倍(50ml)	3日 前 まで	3回以内	400ℓ	訪花昆虫を保護するため、今回の防除は 巣箱を撤去してから散布する。 1. ふくろみ病の被害果は見つけしだい摘み取り、土中深く埋める。 2. 黒斑病は雨により感染するので、 <b>降雨前に防除する。</b> 3. 黒斑病の発生が多い園地では、マイコシールドに替えて、アグリマイシン-100 1,500倍(30日前まで、2回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒斑病	2. マイコシールド 2,000倍(50g)	21日 前 まで	3回以内			
	アブラムシ類 シンクイムシ類	3. モスピラン顆粒水溶剤 <sup>(劇)</sup> 2,000倍(50g)	前日 まで	3回以内			
④ 5月 下旬 後	黒斑病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)	21日 前 まで	3回以内	500ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	灰星病 (環紋葉枯病)	2. マイコシールド 2,000倍(50g)					
	アブラムシ類 シンクイムシ類	3. ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日 まで	2回以内			
		4. サイアノックス水和剤 1,000倍(100g)	21日 前 まで	2回以内			
⑤ 6月 下旬 後	灰星病	1. アンビルフロアブル 1,000倍(100ml)	前日 まで	2回以内	500ℓ	1. 黒斑病が多い園ではマイコシールド2,000倍(21日前まで、3回以内)を使用する。 2. モベントフロアブルを使用した場合、同系統のダニゲッターフロアブルは使用しない。 3. 環紋葉枯病の多い園地ではアンビルフロアブルに替えてベルコートフロアブル2,000倍(3日前まで、3回以内)を使用してもよい。 4. コスカシバの発生が多い園では、6月上旬にスカシバコンL40~100本/10aを設置する。 シンクイムシ類の被害果は見つけしだい摘み取り土中深く埋め、園地内地表面に放置しない。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類	2. テッパン液剤 2,000倍(50ml)	前日 まで	2回以内			
	カイガラムシ類 アブラムシ類 ハダニ類	3. モベントフロアブル 2,000倍(50ml)	7日 前 まで	3回以内			
⑥ 6月 下旬 中	灰星病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)	前日 まで	3回以内	500ℓ	ハダニ類の多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを使用する。 ・スターマイトフロアブル 2,000倍(前日まで、1回) ・カネマイトフロアブル 1,000倍(3日前まで、1回)	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ロブラール水和剤 1,500倍(66g)					
	カメムシ類 アブラムシ類	3. ダントツ水溶剤 2,000倍(50g)	3日 前 まで	3回以内	1. 例年ナシヒメシンクイ・スモモヒメシンクイが多い園では、6月下旬~7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。		
<b>品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。</b>							
⑦ 7月 月上旬 前	灰星病	1. オーシャインフロアブル 3,000倍(33ml)	前日 まで	3回以内	500ℓ	1. オーシャインフロアブルはうり科の野菜に薬害の恐れがあるので注意する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 シンクイムシ類	2. スカウトフロアブル <sup>(劇)</sup> 2,000倍(50ml)	前日 まで	3回以内			

散布時期	適用病虫害	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用 回数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
7月 収穫 中直 下早 包後 生	灰 星 病	1. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで	2回以内	500ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類	2. エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで	3回以内			
散布時期	適用病虫害	中 生 種	中・晩生種	晩 生 種	10a当たり 散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
上 ⑨ 8 旬 月	灰 星 病	1. スコア顆粒水和剤 2,000倍 (50g) (前日まで、2回以内)			500ℓ	1. ハダニ類の発生の多い園地では、コロマイト乳剤1,000倍 (前日まで、1回) を単剤で使用する。 2. インダーフロアブルに替えてベルコートフロアブル2,000倍 (3日前まで、3回以内) を使用してもよい。 3. すず点病の多い園では、かかりむらのないように防除を実施する。 4. オーシャインフロアブルはうり科の野菜に薬害のでる恐れがあるので注意する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 (シンクイムシ類)	2. バリアード顆粒水和剤(調) 2,000倍 (50g) (前日まで、2回以内)					
⑩ 8 月 中 下 旬	灰 星 病	1. パレード15フロアブル 2,000倍 (50ml) (前日まで、2回以内)			500ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類 ハダニ類	2. アーデントフロアブル 2,000倍 (50ml) (前日まで、3回以内)					
⑪ 9 月 上 旬	灰 星 病			1. オーシャインフロアブル 3,000倍 (33ml) (前日まで、3回以内)	500ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 シンクイムシ類			2. モスピラン顆粒水溶剤(調) 2,000倍 (50g) (前日まで、3回以内)			
⑫ 9 月 中 下 旬	灰 星 病			1. インダーフロアブル 5,000倍 (20ml) (前日まで、4回以内)	500ℓ	1. シンクイムシ類の発生の多い園ではヨールフロアブル5,000倍 (前日まで、2回以内) を散布してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類			2. スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml) (前日まで、3回以内)			
⑬ 9 月 以 降 後	黒 斑 病	1. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍 (100ml)	—	—	500ℓ	1. 黒斑病が多発傾向にあるので本防除を徹底する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	コスカシバ	2. ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	前日まで	2回以内			
前黒 回斑 散特 布病 14 日 後 策	黒 斑 病	1. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍 (100ml)	—	—	500ℓ	1. 黒斑病多発園地 (果実に被害のある園地) では本防除を徹底する。 2. 黒斑病が特に多い園では、今回の防除14日後にICボルドー412 30倍 (—、—) を更に使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒 斑 病	2. ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	—			
⑭ 萌 落 芽 葉 休 眠 後 期	コスカシバ キクイムシ類	1. ガットキラー乳剤 100倍 (1ℓ)	休眠期 (落葉後～ 萌芽前)	1 回	200ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
⑮ 休 眠 期		1. 水 (90ℓ)			400ℓ	1. 例年ふくろみ病の発生が見られる園では、本防除を徹底するとともに、散布にあたっては、枝先から洗うように丁寧にたっぷり散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	越冬病虫害 (ふくろみ病)	2. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍 (100ml)	発芽前	—			
		3. 石灰硫黄合剤 10倍 (10ℓ)					

耕種的防除

全 般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。
灰 星 病	1. 被害花 (果) や被害葉、被害枝は見つけしだい摘除し、土中深く埋める。 2. 枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。
黒 斑 病	1. 被害葉や被害果は、見つけしだい摘除し、土中深く埋め園地内地表面に放置しない。 2. 風の強い園では、防風対策を徹底する。 3. 樹勢が弱いと発生が多くなるので適切な樹勢の維持に努める。

交信かく乱剤(性フェロモン剤)の使用上の注意事項

- 1) 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園地内均一に設置する。
- 2) できるだけ地域全体で設置する。
- 3) 傾斜上部の設置割合を1～2割多くする。
- 4) 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
- 5) 防風ネットなどを利用する。

すもも施肥基準 (成木：10a 当たり)

品目・目標収量	肥料名	施肥量 (kg)	施肥時期	N	P	K	
すもも 2,000kg	礼 肥	磷酸安加里 S248 (わかみどり)	10kg	収穫直後	2.0	0.4	0.8
	基 肥 いずれか	フレッシュフルーツ有機70	80kg	8月下旬～9月上旬	8.0	4.0	1.6
		フレッシュフルーツ有機40	80kg	8月下旬～9月上旬	8.0	3.2	1.6

未結果樹の防除

散布時期	適用病虫害	使用薬剤	濃度	収穫前 使用日数	総使用 回数
休眠期	越冬病虫害	石灰硫黄合剤	10倍	発芽前	—
4月中旬～下旬	黒 斑 病	ICボルドー412	30倍	—	—
5月上旬～6月上旬 (果箱撤去後)	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤(調)	2,000倍	前日まで	3回以内
	黒 斑 病	ICボルドー412	30倍	—	—
8月中旬～9月中旬	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤(調)	2,000倍	前日まで	3回以内
	ケムシ類が多い場合はフェニックスフロアブル 4,000倍 (前日まで・2回以内) を使用してもよい				
9月下旬～10月上旬	黒 斑 病	ICボルドー412	30倍	—	—
休眠期	コスカシバ キクイムシ類	ガットキラー乳剤	100倍	休眠期 (落葉後～ 萌芽前)	1回